『社会福祉法人』は変われるか！？

市民社会をつくる
ボランタリーフォーラム
TOKYO

法人　制度　改革　地域　公益　市民　期待

分科会 No. 1

あらためて社会福祉法人の役割を考える　～地域とともに～

今　社会福祉法人改革が謳われています。とりわけ「地域における公益的な取組の義務化」が定められ、新たな役割が問われようとしています。本来、社会福祉法人は、まったく制度がない時代から市民活動の原点とも言える地域住民や多くの関係者がボランタリーに連帯して制度化してきた法人です。

この制度を改革するということは、現行の事業に何らかの活動をつけたせばよいというものではありません。かつてそうしてきたように地域や多くの市民・ボランティアとの協働が必要であり、国や行政もその役割を新たに問われます。さまざまな制度の規制や厳しい経営状況のもと、社会福祉法人は変われるでしょうか？

このパネルディスカッションでは、市民の目から捉えた地域における社会福祉法人の役割、ボランティア・市民活動と社会福祉法人の接点、そしてこれからのあり方について考えます。

パネリスト

西 岡　修 さん（社会福祉法人白十字会　白十字ホーム施設長）

矢沢　正春 さん（社会福祉法人新宿障害者福祉協会　新宿区立あゆみの家施設長）

高瀬　由直 さん（青梅市社会福祉協議会　事務局次長）

コーディネーター

安藤　雄太（東京ボランティア・市民活動センター　アドバイザー）

日 時　２０１６年　２月１２日（金）　１９：００～２１：００

会 場　飯田橋セントラルプラザ１２Ｆ　Ｄ会議室

定 員　４０名